MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

ミステリ読書案内

２０２３．９．１３　発行元
第 513 号　伊藤　剛
https://mystery-dokuan.com

MYSTERYDOKUSHOANNAIMYSTERYDOKUSHOANNAIMYS

F・W・クロフツ「ベスト表」(再掲)

世界のミステリベスト１０によく取り上げられる『樽』の作者Ｆ・Ｗ・クロフツ。彼の『ベスト表』を再び取り上げておこう。天才型ではなく、地道に捜査を積み上げていくフレンチ警部などの活躍が描かれている。

『フレンチ警部シリーズ』

フリーマン・ウィルス・クロフツの作品については、この『ミステリ読書案内』でも度々取り上げてきた。『クロフツの代表作』の号では『樽』と『フローテ公園の殺人』と『クロイドン発１２時３０分』の三冊を紹介した。

また、『鉄道ミステリ特集』では『列車の死』を、『船ミステリ特集』では『シグニット号の死』を取り上げた。世界のミステリの歴史の中ではそれだけの印象に残る作品を書いた作家ということになる。

今回は初期の作品の中から『フレンチ警部最大の事件』と『マギル卿最後の旅』の二作の内容を紹介しようと考えた。以前にも書いたが、クロフツ作品は後期になってもレベルが下がらないのが特徴で、安定した内容になっている。

クロフツ作品はその後再刊されているようだが、古書市場でも出回っている量が少ないようで、欠品状態になっている本が多い。若い読者のために少部数でも揃えておいてもらうと有難い。電子書籍は私にはどうしても馴染めない。本の形で残していってほしいものだ。

《Ｆ・Ｗ・クロフツのベスト表》

１．樽
２．スターベルの悲劇
３．ポンスン事件
４．フローテ公園の殺人
５．マギル卿最後の旅
６．フレンチ警部とチェインの謎
７．フレンチ警部最大の事件
８．ギルフォードの犯罪
９．海の秘密
１０．チョールフォント荘の恐怖
１１．列車の死
１２．フレンチ警部と賭博船
１３．フレンチ警部と紫色の鎌
１４．フレンチ油田を掘り当てる
１５．黄金の灰
１６．製材所の秘密
１７．蜘蛛と蠅
１８．英仏海峡の謎
１９．ヴォスパー号の遭難
２０．山師タラント
２１．クロイドン発 12 時 30 分
２２．フレンチ警視最初の事件
２３．ホッグス・バッグの怪事件
２４．関税品はありませんか
２５．二つの密室
２６．船から消えた男
２７．クロフツ短編集１（短）
２８．死の鉄路
２９．サウサンプトンの殺人
３０．シグニット号の死
３１．クロフツ短編集２（短）
３２．見えない敵
３３．二重の悲劇

ここに示した以外に私の未読作品が４～５冊ある。

『フレンチ警部最大の事件』

１９２５年の作。長編第５作目に当たる。これ以前の作品の捜査陣の中心人物は一作ごとに換わっていたが、本書からは「フレンチ警部」で統一された。フレンチ警部の最初の作品が「最大の事件」になるわけである。

１１月のロンドン旧市内。街を巡回する警官の前に若者が飛び出してきて、人が死んでいると伝える。宝石、ダイヤモンドを扱う会社の事務室で支配人のゲシンが殺されていた。鈍器で殴られたようである。金庫の扉が開き中の何かが盗まれた状態。早速本庁に連絡が取られ、フレンチ警部が登場する。中背よりはやや低く、頑丈な体格。穏やかな人物の印象である。社長のデュークが呼ばれ、金庫の中身を確認してみるとが３３０００ポンドのダイヤモンドが消えていた。金庫の鍵は二つしかなく、一本は銀行が保管し、もう一本はデュークが肌身離さず持っているという。合鍵も不可能。一人の社員が行方不明になっていた…。

『マギル卿最後の旅』

１９３０年の作。長編第１０作目に当たる。前作までは鉄道の仕事と作家の仕事の両方をこなしていたのだが、本作から作家一本の立場になる。クロフツはアイルランドの生まれであり、本作の舞台となる北アイルランドは鉄道の仕事をしていた場所である。

スコットランドヤードにいるフレンチ警部のところにアルスター警察署の部長刑事マクラングが訪ねてくる。ジョン・マギル卿が行方不明になっているという相談である。マギル卿は北アイルランドのベルファストで紡績工場を経営して富を蓄えた人物。引退してロンドンで生活をしていたのだが、ベルファストへ行ってくると言って出掛けたまま現地の息子の家に到着しなかった。調べてみると、イギリス本土から北アイルランドへ向かう船に乗ったことは間違いないようだとのこと…。血痕のついた帽子を残したまま…。フレンチ警部が北アイルランドに出掛けて捜査を開始すると、現在の工場経営者である息子のマルカム・マギル少佐の自宅からマギル卿の死体が発見されたのだ。関係者のアリバイを追求していくフレンチ警部…。